

## 蓬萊町だより

第十九号

昭和63年7月28日  
発行者 蓬萊町会  
編集者 文化部

### 会長就任に当って

高島 正義

(1) この度皆様のご推挙によりまして蓬萊町会の会長を仰せつかりました。前会長の久員貫一様はご存知の通り人徳・識見ともに優れたお方で人望も篤く長年にわたって会長の任に当ってこられました。今期も勿論そのまま会長として我々をリードしていただけるものと考えておりましたが、昨年急のご病気でご入院されその後もご気分がすぐれず、会務に支障があつてはとの事で辞意を表されておりました。役員はじめ先輩の方々ともご相談の結果、ご健康の回復が第一という事で辞表をお受けすることになりました。つきましては不肖高島が残存任期の会長職を務めよとご推めでこれをお受けすることとなりました。次期改選までの短期間ではございますが皆様方のご協力なくしては何事も出来ませんので全幅のお力添えをお願いいたします。

尚、過日の総会でお願ひ申し上げましたが毎年各部の予算を節約して災害時の用意にと出来る限りの積立てをして参りました。しかしこの数年部費の節約等にも限界が来まして決算書をご覧いただければ明白の通り、繰越金も出ない実状となりました。町会は自治団体でございますので会員の方々の会費の前納がなければ予算も執行出来ません。つきましては、近々あらためてご案内申し上げますが、会費の値上げと前納に就てご協力いただきたく存じます。

(63・7・4)

### 蓬萊町界限(その十六)

#### 「温泉まわり」

林 順 信

☒戦前のメインストリート

「温泉まわり」なんていうと、ずいぶんと結構なはなしじゃないかと羨しがられるが、蓬萊町育ちの我々にとっての「温泉まわり」は一種のペナルティ(罰則)だから、らくちんどころか、なるべく、やりたくない苦行の一つだった。

現在の根津裏門坂をのぼり切って、一炉庵と大木ブティックの間から西へ、本郷通りまでの

広い道路を歩いていると、昭和二十年三月十日の東京大空襲で焼かれた、昔の蓬萊町の有様が全く見当がつかなくなってしまった。

この広い道路は、今から十五年程以前に拡張されたが、本郷通りに近い西の方が、戦時中から大きく変貌をとげたのであった。根津裏門坂とは、いま区役所で建てた標識にはそう出ているが、戦前なら、この坂をば「医専の坂」と呼んでいた。日本医科大学が、日本医専から日本医大に昇格されたのは昭和のごく初期のことだったと思うが、医大となってからも、地元の人々は「医専の坂」と呼んでいた。この坂の頂上の十字路は、旧町名でいうなら、実に四つの町々が、辻を形成していた。東南角は根津西須賀町、西南角は駒込追分町、東北角は駒込千駄木町で、西北角こそが駒込蓬萊町七番地の一炉庵である。東北角には黒板塀で囲まれた鰻屋の「柏木」があった。東南角には宇佐美という小間物屋(文具屋)があったし、西南角には、カフェーがあった。この「医専の坂」には、真すぐの四辻ではなく、多少右手にカギの手で歩いてから西の方へ進む、よく城下町にある変則的なものだったのが、つい十五年ほど前に拡張されると共に、十文字に正しく改められた。

この根津の方から坂を上って来た人は、今日の様に直進できず、一炉庵から四・五軒先を右折して、どんつきにある郁文館の前を左に曲が

って、本郷通りに出るが、もう一つは西へ歩いて「魚常」という小料理家のところを右折して、現在の田中齒科医院の辻を西に折れて本郷通りに出るのが通常の順路だった。

だから、九月の根津権現様の大祭の、あの大きな宮神輿だって、蓬萊町へ入ったら、その後者の順路で渡御したものだ。現在は山車に乗せられて巡幸しているが、戦前は二年に一度、一の宮か二の宮か三の宮の中の何れかの一基が、白丁姿の駕輿丁たちによって肩にかつがれて、ゆっさゆっさと揺られながら蓬萊町内をば渡御していたのであった。渡御に先立って、長い竹竿をかついだ係員が、電線や電話線を、神輿の頂の鳳凰がふれない様に、一時取りはずして歩いたのであった。戦前までの蓬萊町でいえば、いま私が説明した範囲は、七番地と六番の一部で、昔の番地は広い区域にわたっていたものだったと思う。

#### ☐草津温泉があった

現在小料理「魚常」のあるところは向丘二丁目十六となっているが、以前はそこが駒込蓬萊町六番地で、そこには、銭湯の草津温泉があった。その煙突は、道路拡張まで残っていたから、記憶のある方も多いはずだ。

この銭湯の草津温泉が、実はそこいらにあるお風呂屋とは違って、いわくのある大変な銭湯だった。

明治三十年以前からと思うから、もうかれこれ百年近いことになるのだろうが、上州の草津温泉から湯の花を運んで出張所をこしらえたのだった。

およそ明治の風俗のことを調べる時、先ずひもとく『風俗画報』によると、

#### 「元祖草津浴」

草津温泉は駒込蓬萊町六番地にあり、元祖草津浴と称す、営業主藤谷彦一郎、上州草津温泉の湯花をうつして浴槽を開く、所謂薬湯なり、客室あり、料理あり、旅館を兼業とす、庭城大にして、珍花怪石、歩々観をなめ、離亭閑雅、登音尚聴くべし、一日の清遊足る。」

と出ているから、明治時代には、東京に居ながらにしての温泉気分を味わえるという、結構知られて、お客も多かったのだろう。

また、明治時代の草津温泉の引札（広告）が私の手もとに保存されている。全景が絵入りで描いてある。日本瓦葺きの二層楼で、門構えとなつて居り、左右に瓦斯灯がある。人力車が二台、三台、入口に駆けつけている風景だ。右側の門柱には「御とまりやど 草津」と、左側には「即席御料理御弁当」と標札が下がっている。

一度入浴は二銭、一日入湯は十五銭だが、一夜御止宿御入浴御食事御賄となると、上は四十銭、並は三十銭となっている。

効能となると、現在ではとても難解な病名ま

で含んで、次の様である。

「効能——せんき、すんばく、ぢしつ、そうどく、たいどく、しつ、ひぜん、いんきん、きりきず、うちみ、りんびょう、せうかち、らうしゃう、しらくも、たん、ぜんそく、ただれ、たむし、ようてう、ねぶと、かっけ、れうまちす、しもやけ、やけど、ふうしつ、りうみん、酒どく二日よい、むねはらいいたみ、がんがさ、しびれ、さん前さんごちのみちによし」と、およそ何にでも効くみたいだが、こんな病気の問屋みたいな湯治客に混って入浴していたら、とんだお土産を頂戴しないでもないと思うと、明治の昔の衛生知識がわかるというものである。

現在、浅草観音裏の言問通りに面して建つ大きな料亭の草津亭も、同じく藤谷氏の経営するところだし、昔、日本橋茅場町にも草津温泉はあったことが知られているから、ここなども同じく藤谷氏の経営するところだったろう。

私が昭和十年頃、今から半世紀以前に通つた銭湯草津温泉は、それは庭のたずまいは昔日の面影は伝えていて、なかなか疑ったものだったが、もう人が泊れる旅館の設備はなかった様

に思う。

当主は、でっばりと太って、丁度、かつての大川博東映社長の風貌とそっくりの、太いふちの眼鏡をかけて、背広を着て居られた。本郷区

区会議員の選挙に立ったことがあったと、子供の時のことだが記憶している。日中戦争が激化して第二次大戦に拡大される頃になると、燃料が不足して、家庭で毎日風呂に入ることが難しくなったので、蓬萊町民はよく草津温泉を利用したものであった。番台に座っていたのは、私より二・三歳おねえさんの、藤谷さんの娘だった。お父さんと同じくべっ甲の様なふちの眼鏡をかけていた。菊坂に女子美と並んで建ていた佐藤女学校に通っていた。なかなか粋なおねえさんだった。日頃の制服の着こなしからして、相当にいいカブだったろうと想像される。もう時効だからご勘弁ねがう。

戦時中、銭湯に行けば、かならずお土産をもらって帰って来た。さすが南京虫だの、ノミはいなかったが、かならずといってよい程、観音様を頂戴して帰って来た。相当に注意をして肌着をぬいで、板の間のなるべく真中に置いて、隅の方には置かない様にしている、家へ帰ってから、シャツやパンツの縫い目を点検すると、いるわいるわ、二匹か三匹はすぐ発見出来る。中には人の血を充分に吸って、からだが赤黒くなっているのもあって、これだとすぐ発見できた。左右の拇指の爪と爪とは喜んで、ブツリブツリと、観音様をころすのが、銭湯から帰ってからの仕事のひとつであった。そのからだの恰好から、シラミは観音様などと、勿体ないお名

前まで頂戴してしまっただが、戦争中や敗戦直後の東京の暮らしの中では、銭湯だの通勤電車の中で、このありがたい観音様を頂戴することは、老若男女を問わず、誰しも経験のあることで、進駐軍のDDTが普及するにつれて次第に姿を消して行った。

蓬萊町の草津温泉の並びには北に、今川焼を売る店、岡田古道具店が並び、その先の角地には、さつまいもの焼を冬には売っていた八百屋があった。向かい側には、埼玉屋履物店、越智酒店、ビリヤード、写真館などが並んでいて、先の角地には煙草屋があって、結構にぎやかな通りとなっていた。戦前には、蓬萊町の中には下宿屋が沢山あったから、大学生やサラリーマンもかなり住んでいたから、それなりに商店が多かった。第二次大戦で蓬萊町が焼かれないうすんだならば、今頃は木造家屋の耐用年数ももう過ぎていくから、新築ブームになっているだろう。

# ◇ ◇ ◇

蓬萊町の郁文館の近くで育った少女友達にとって、草津温泉を曲ったの郁文館からの一周の四角い道路が、遊びのトラックみたいな恰好の距離だった。

当時は「お使いごっこ」というのが流行った。路上に直径一米半ほどの円形を描いて、中心に小さな丸を描いて、二つか四つに分割する。そ

の周囲からは、放射状に、つまり西瓜わりに、大きな円を分割する。円から離れた四〇五米のところをラインをひいて、めいめいが、石だの丸い円盤を、それぞれのお使いに行くべき場所を指して投げ込む。ゴルフと似て、誰でもがねらいたい枠の手前や、先方には、どっこい落とし穴があって、遠方の店名が書き込まれている。近いところの店にお使いに行くには、センターの小円のごく小さな1/4分割のところや、細い細い放射状区割の中に、巧みに自分の石を投げ込まなければならない。

全員が投げ終わったら、スタートラインに、左右ふり分けて並んで、よいいドンで目指すお店に駆けて行って、片手をタッチして帰ってくればよい。全員のうちで、最後に帰って来たやつは、ベナルティとして「温泉まわり」と、皆からコーラスで言い付けられてしまう。遠いところへ駆けて行ったからこそ遅かったのに、更に「温泉まわり」とは泣きっ面に蜂とはこのことである。現在なら二十米も駆けないうちに車にブツ飛ばされるであろう。大人になって、「温泉まわり」と同じ路上を歩いてみたら、子供の時分には、もっともっと距離が長く感じていたが、案外に短かいのに驚いた。

ともあれ、今回は大変に細かい話となって恐縮だが、次回は第二十号なので、地図か図版を使った話ができればやってみたいと思っ

## 町会活動の概要

昭和63年1月下旬から6月末日まで

## 総務部

1月22日 緊急役員会

議題 久井会長のご勇退に伴う後任会長の選

任について

役員会において協議し、後任会長に高島正義氏を選任致しました事をご周知申し上げます。

2月24日 向丘地区12町会、町会長会議が開催されました。

4月16日 文京区主催により植樹祭が行われ、会長が出席いたしました。

4月20日 地下鉄7号線の工事に伴う説明会がありました。

5月11日 向丘地区町会連合会の総会に会長が出席いたしました。

6月25日 当町会の昭和63年度通常総会を開催いたしました。

(1) 昭和62年度 事業報告及び収支決算について

(2) 昭和63年度 事業計画及び収支予算について

(3) 副会長の選任について  
右記の提案事項について審議し、満場一致

で承認致しましたことを本紙をもってご報告申し上げます。

なお、(3)の副会長には、左記の方々が選任されました。

広沢長次郎氏、小林音吉氏、川西正造氏

(4) 役員の一部交代について

南部 退任 溝口房治郎氏

新任 本江伸光氏

北部 退任 磯貝君子氏

新任 山田俊彦氏、中川允子氏

木内裕子氏

☆昭和62年度収支決算書及び昭和63年度収支予算書については、本紙の頁末に掲載して

ございますので、ご一覧願います。

## 防犯部

3月2日 駒込警察署において防犯会議が開かれ、会長、防犯部長、出席いたしました。

4月30日 アパート、マンション等の空き巣盗難が続出していることから、駒込警察署係員

による防犯査察及び指導が行われました。

5月25日 防犯協会の総会に防犯部長が出席致しました。

## 衛生部

3月28日 本郷保健所において各町会衛生担当者会議が開かれ、会長が出席いたしました。

4月30日 文京区役所からの通知により、成人

無料健康診断について回覧により通知

5月10日 文京区役所から、殺虫薬剤の配布依頼を受け、各宅に配布いたしました。

## 防火防災部

2月29～3月13日まで春の防火運動旬間が実施されました。

3月30日 防火運動の一環として、大観音において初期消火と応急手当の講習がありました。

4月27日 本郷防火協会理事会

5月19日 本郷防火協会総会

5月22日 向丘地区町会代表の防災リーダー講習会が池袋防災センターでありました。

## 交通部

4月6～4月15日まで春の全国交通安全運動が実施されました。

この旬間中には、交通部、婦人部、青年部の方々が連日交代で街路指導を行ってきました。幸い当地区内では事故の発生もなく運動期間を終えましたが、事故は一人ひとりの交通安全への心構えにかかわる問題です。どうぞ交通事故など皆無な町づくりのためにご協力下さい。

婦 人 部

5月30日 日本赤十字募金につきましては、いつもながら会員皆様の温かいご厚情によりまして、次の金円が寄せられました事をご報告申し上げます。

一金 一六〇、六〇〇円

青 年 部

2月14日 もちつき大会

大林寺境内をお借りして12時より開催いたしました。幸いに天候にも恵まれ、大勢の親子連れの皆さんのご参加を得まして、賑やかに催すことができました。子供さんの中には「餅つき」などは初めて見たと言う方もいたでしょう。また皆さんに喜んで戴けるような企画を練っております。ご期待下さい。

今年のご祭礼は本祭り、「みこし」の担ぎ手にぜひご参加を願います。

チビッコちゃんには「山車」を一生懸命引っ張ってね。待ってますよ。

文 化 部

4月1日 本年度、小学校への新入学されたお子様は当町会内で5名でございます。

ご入学誠におめでとうございます。これから益々健やかに成育なさること存じます。町

会よりささやかな心ばかりのお祝い品をお贈りしました。

佐藤恵美様 益子輝美様 真下秀伸様  
阿部光恵様 鯉田綾子様

計 報

当町会にお住まいの方で、1月より6月までにご逝去された方々のお名前は、左記のとおりでございます。

謹んでお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

小池千代様 大熊友太郎様 森本三郎様  
三河俊介様

蓬 萊 句 壇

文化部では隔月に一回町内の常瑞寺様の集会所をお借りして、初心者にも気楽に参加出来る俳句勉強会を開催しております。次回は八月二十二日(月) 午後六時半から開きます。俳句は先づ自分で作る事が一番です。むづかしく考えず気軽に門をくぐって見て下さい。

六月例会の作品は次の通りです。

天 棟上げる幣串挙がる梅雨晴れ間  
地 産土よ鎮守の杜よ夕焼よ  
人 大夕焼真向いにして「ゆ」ののれん  
喜 一  
吉 次  
帰 蝶

夏羽織父の齡と並びけり すえ  
出雛子のきこへて木戸の夏羽織 真幸  
五十鈴川青葉の彩に魚跳る 千重  
輕鴨のゆく潦堀近し 連木  
夏羽織着て木場堀の夕げしき 沛雨亭

編 集 部

本号がお手元に届く頃には、夏本番を迎えて酷暑の最中かと存じますが、考えようによって体を鍛える一番よい季節かとも思いますので、元氣にお活躍下さい。

本年のご祭礼は9月17日・18日と決まりました。本祭りでございますので、なにかと迷惑をお掛けいたしますが、宜しくご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

編集委員

小林音吉 竹中一馬 高橋一郎  
猪熊良晃 池田 暉



## 昭和62年度 決算報告書

昭和62年4月1日～昭和63年3月31日

| 収入の部 |           |     | 支出の部   |           |            |
|------|-----------|-----|--------|-----------|------------|
| 科目   | 金額        | 摘要  | 科目     | 金額        | 摘要         |
| 繰越金  | 45        | 区より | 総会費    | 134,090   | 会場費及茶菓子代   |
| 町会費  | 1,205,250 |     | 会議費    | 42,610    | 役員会会場費茶菓子代 |
| 補助金  | 167,430   |     | 総務部    | 198,600   | 部会・研究等に    |
| 寄付金  | 47,000    |     | 渉外費    | 131,450   | 関係団体等      |
| 雑収入  | 161,100   |     | 備品費    | 86,000    | 維持及購入費     |
| 銀行利息 | 578       |     | 事務費    | 78,120    |            |
|      |           |     | 通信・交通費 | 64,000    |            |
|      |           |     | 電気代    | 53,543    | 防犯灯、維持費含む  |
|      |           |     | 防火防災部  | 38,700    | 部の活動費      |
|      |           |     | 防犯部    | 68,480    | 部の活動費      |
|      |           |     | 交通部    | 77,660    | 部の活動費      |
|      |           |     | 衛生部    | 7,300     | 部の活動費      |
|      |           |     | 文化部    | 116,760   | 部の活動費      |
|      |           |     | 婦人部    | 141,250   | 部の活動費      |
|      |           |     | 青年部    | 200,000   | 部の活動費      |
|      |           |     | 慶弔費    | 24,000    |            |
|      |           |     | 消耗品費   | 7,730     |            |
|      |           |     | 返金     | 60,000    | 防災積立金へ     |
|      |           |     | 繰越金    | 51,110    |            |
| 合計   | 1,581,403 |     | 合計     | 1,581,403 |            |

昭和63年6月25日

収支決算上記の通り報告します。

町会長 高島正義 印

上記の決算相違なき事を証明します。

会計 川西正造 印

防災積立金 1,002,795 (昭和63年3月31日現在高)

会計監査 須藤正四郎 印

## 昭和63年度 予算書

昭和63年4月1日～昭和64年3月31日

| 収入の部 |           |       | 支出の部   |           |                |
|------|-----------|-------|--------|-----------|----------------|
| 科目   | 金額        | 摘要    | 科目     | 金額        | 摘要             |
| 繰越金  | 51,110    | 前年度より | 総会費    | 130,000   | 会場費及茶菓子代       |
| 町会費  | 1,250,000 | (区より) | 会議費    | 50,000    | 役員会会場茶菓子代      |
| 補助金  | 150,000   |       | 総務部    | 200,000   | 部会及研究等に        |
| 雑収入  | 100,000   | 銀行    | 渉外費    | 150,000   | 関係団体等          |
| 利息   | 200       |       | 備品費    | 60,000    | 維持・            |
|      |           |       | 事務費    | 80,000    |                |
|      |           |       | 通信・交通費 | 60,000    |                |
|      |           |       | 電気代    | 60,000    | 防犯灯維持費含む       |
|      |           |       | 防火防災部  | 50,000    | 訓練費他           |
|      |           |       | 防犯部    | 50,000    | 夜警等に           |
|      |           |       | 交通部    | 70,000    | 安全運動費他         |
|      |           |       | 衛生部    | 10,000    |                |
|      |           |       | 文化部    | 170,000   | 蓬萊町だより・成人・新入学祝 |
|      |           |       | 婦人部    | 150,000   | 敬老費他           |
|      |           |       | 青年部    | 200,000   | 部費             |
|      |           |       | 慶弔費    | 30,000    |                |
|      |           |       | 消耗品費   | 30,000    |                |
|      |           |       | 予備金    | 1,310     |                |
|      |           |       | 返金     | 0         | 防災積立金へ         |
| 合計   | 1,551,310 |       | 合計     | 1,551,310 |                |